



寺ネット・サンガ通信 第11号

寺ネット・サンガ事務局 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-2-14 日本橋KNビル4階

Tel 03-5201-3976・Fax 03-5201-3712・メール info@teranetsamgha.com

サンガの理念



寺ネット・サンガ代表 吉田尚英

中下代表の辞任

8月初旬、中下大樹代表から一身上の都合により代表を辞任したいと、事務局員に突然の申し出がありました。これまでの活動からいったん離れ、休息と充電の時間をとりたいというご意向でした。

事務局員一同、中下さんの決意を尊重し、どうか今はゆっくり休んでほしいと、代表辞任を承認しました。その後、事務局会議を重ね、不肖私が代表を引き継ぐことになりました。なお、中下さんは今後も会員としてお手伝いいただくことになっています。

代表が交代しても寺ネット・サンガは変わることなく活動を続けていきます。それは活動の理念がしっかりと構築されているからです。

サンガは「出会いの場」

仏教・お寺・僧侶と縁がない人が増えている現代、サンガは仮想寺院として敷居が低く間口が広い場所でありたいと考えています。仏教に興味を持つ人は少なからずいるはずですが、お寺は高い布施を取られるなど負のイメージも、真摯に仏教に向き合う僧侶に出会うことによって払拭していきたい。超宗派の僧侶や異業種の専門家や仏教に興味を持った人々が集い、生と死やいのちの問題について真剣に考え、話し合える「出会いの場」が寺ネット・サンガです。

サンガは「気づきの場」

仏教の教義や修行体験による気づき、葬儀やエンディングなど「生と死の問題」をテーマにした集いによる気づき、超宗派の僧侶やさまざまな経歴を持つ人との出会いによる気づき。日常生活の中で気にも留めなかったことを真剣に考える。そんな「気づきの場」が寺ネット・サンガです。

この「気づき」は僧侶の視野を広げるための大きな刺激にもなります。「気づきの場」は僧侶の「修行の場」でもあります。

サンガは「救いの場」

現代社会はまさに苦の現場です。その中で苦しむ人に、仏教と出会うことによって違う見方ができると伝えることができたなら、少しは楽にはなるのではないかと思います。『雨ニモマケズ』のデクノボーのように共にオロオロ歩くしかできないかもしれません。それでもサンガの存在が「救いの場」でありたいと願っています。

以上3つの理念は、昨年10月の事務局会議で確認されました。この理念に基づいて坊コンや仏教ひとまわりツアーなどが企画されています。このサンガの理念を共に作った中下さんが帰る場所としてサンガを守り続けていきたいと考えています。



坊コン会場 「ウィズビジネスセンター」

東京都中央区日本橋3-3-3 山川ビル5階

TEL (03)5201-3883

fax (03)5201-3712

http://www.wissquare-bc.com/access/index.html

5月8日(木)



プチ法話「お互いに輝かせ合う存在」 流山市 真言宗 円東寺住職 増田俊康
 私たちはピカピカの状態で生まれてきたはずなのに、世間で生きていくうちに立場や経験が珠を曇らせ、自身がつるつるピカピカであったことも忘れてしまいます。本来、私たちには「仏性」がそなわっているのに、それを忘れて生きています。修行をすることは、曇っていないかなと自身の心に問いかけ、汚れを落とす作業とも言えます。そして自身がつるつるピカピカであれば、周囲を輝かせることもできるのです。

坊コン談義「あなたにとって修行とは？」

「日常生活の中で修行という感覚がない」「座禅をしている時に気持ちが良くなったことが忘れられない」「生きていることそのもの」「人に対して悪意をもたない」「会社の普段の仕事が修行」「一日一日を丁寧に過ごすこと」などの意見が出ました。

7月28日(月)



プチ法話「七つのお布施」 大阪市 高野山真言宗 興徳寺住職、青木隆興
 自分の大切なものを捧げて、仏さまのお力を頂くというのが本来の「お布施」の意味。お釈迦さまは「無財の七施」(①房舎施：宿を貸す②牀坐施：席を譲る③言辞施：優しい言葉をかける④和顔施：笑顔で接する⑤眼施：優しい眼差しで接する⑥心施：相手の気持ちを接する⑦身施：労働奉仕)を説かれています。お布施の根本にある相手を思いやる心で行動すればできそうなことですね。

坊コン談義「意識をもってお布施をしていますか？」

「見返りを求めず、自然に体が反応することがお布施ではないか」「和顔施をみんなが少しずつ心がけると丸い世の中になるのではないか」「日常の中で感謝の思いを表わし、お布施し合っているのかもしれない」などの意見が出ました。

9月29日(月)



プチ法話「禅の生活」 港区曹洞宗 正山寺住職 前田宥全
 禅堂修行中は、挨拶・掃除・調理・食事・洗面・入浴からトイレの作法まで、生活のすべてを作法にのっとって精一杯努めます。修行中に思い通りにならない生活を経験していくうちに、苦しみや悩みの受け止め方が変わったそうです。思い通りにならない今を、あるがままに受け止めることによって、更なる苦しみを生みだすようになるのではないのでしょうか。

坊コン談義「あなたが許せない事は何ですか？」

「時間の経過と共に感情が薄れる」「時間は解決しない、許せない気持ちが増幅することもある」「社会的な問題に対して許せない気持ちが強い」「ポジティブに許しすぎては自分自身がなくなるのではないか」などの意見が出ました。

坊コン 次回シリーズは『こんな供養は〇〇だ！ 一クヨクヨしない供養一』

お葬式・お盆・お彼岸、お墓・仏壇・お位牌、お花・お供物・精進落とし。亡き方やご先祖さまへの供養で迷ったり悩んだりすることは多いと思います。

「お経をあげてもらわないと成仏できないの?」「故人はどこにいるの?」そんな素朴な疑問をテーマに、各宗派僧侶間の考え方の微妙なズレや、僧侶と一般人の意識のずれ違いを確認しながら、本当の供養について考えてみようという企画です。

葬儀業界やエンディングに関わる専門家の方々も参加されると一体どんな供養に行きつくのでしょうか?

どうぞお楽しみに!



第16回 6月28日(土)

「お護摩の修行」

真言宗智山派大本山

川崎大師平間寺



護摩壇の周囲に、香華や五穀、お供物をお供えし、導師が中央の炉の中に護摩木を焚いて、ご本尊・厄除弘法大師さまのご供養にはじまる秘法です。燃え上がる炎に不動明王の剣をかたどったお護摩札をかざし、煩惱を焼き、浄化することで家内安全、災厄消除、所願成就を祈願しました。

「即身成仏」

「即身成仏＝この身このまま仏になる」というのが弘法大師空海上人の教えです。「身口意」つまり身体と言葉と心が合わさった時に仏になるという教えです。例えば、ご飯を食べる時に、手を合わせる「身」、「いただきます」と言葉にする「口」、食事に対する感謝の心を持つ「意」が揃えば、「身口意」の実践につながります。身近に「身口意」を実践する場面がたくさんあります。日常生活の中で、教えを実践していくことが大切です。



第17回 8月30日(土)

「境内参拝」

浄土宗大本山 増上寺



徳川家康が江戸城を居城とする際に増上寺を菩提寺とし、現在の千代田区平河町から芝の地にお寺を移転しました。昭和20年の空襲で焼失を免れた三解脱門や経蔵に江戸当時の面影を偲ぶことができます。安国殿には家康が合戦の前に必勝祈願をしたという守護念持仏「黒本尊」がお祀りされています。

「別時念仏会」

木魚を叩きながらお念仏をお称えしたり、額と両肘・両膝を地につけ、手のひらを耳の上に差し上げる「接足作礼(せつそくさらい)」と呼ばれる最上級の礼拝をしては立ち上がり、その間お念仏を唱え続ける修行を20分ほど行ないました。お坊さんたちは、このような修行を何時間も続けるのだそうです。続けているうちに無心になり、至らない自分に気が付き、阿弥陀様への信仰に導かれていくそうです。



第18回予告 11月1日(土)

總持寺のご案内

曹洞宗大本山 總持寺



約700年前、大本山總持寺は能登に開創。明治31年、伽藍の多くを焼失し、明治44年横浜市鶴見の地に移転。15万坪の寺域を有し、鉄筋製の大伽藍をはじめの多くの諸堂が建てられました。

百数十人の僧侶が修行する首都圏の禅の根本道場です。
ツアーでは法話・境内参拝・坐禅を体験していただきます。

「大本山めぐり」シリーズの総決算です。

仏教ひとまわりツアー 第6段の予定 『まちのお寺の学校めぐり』



「まちのお寺の学校」は、お寺をもっと気軽に楽しく温かい居場所にする事で、「まち」や「ひと」を元気しようと市民とお寺が協働して始まったプロジェクトです。お寺は会場を提供し、ヨガや写経、和ろうそくやお香づくり、ジャズやアートなどのさまざまな講師がプログラムを提供し、共に集いワクワクする空間を一緒に作り上げようというものです。

仏教ひとまわりツアー第6段は、「まちのお寺の学校プロジェクト」とコラボして、首都圏の「まちのお寺の学校」を訪ね、「まちのお寺の学校」のプログラムをサンガの超宗派の僧侶と共に体験します。

詳細はこれから詰めていきます。

ご期待ください！

寺ネット・インフォメーション

京浜四大本山「だより」

仏教ひとまわりツアー第5段でお世話になった「京浜四大本山」では、毎月各本山で行なわれている催し物を紹介する京浜四大本山「だより」を発行しています。ホームページからもダウンロードできますので、興味のある催しや修行体験を探して、参加してみたいかですか。歴史と自然が溢れる京浜四大本山で、新たなる発見と心安らぐ時間を体感していただけることと思います。



まちのお寺の学校

仏教ひとまわりツアー第6段でお世話になる「まちのお寺の学校」は、首都圏だけでも十数か寺が会場を提供し、「ゆったり寺ヨガ」「ココロがアラワレル写経の時間」「死の体験旅行」「寺ジャズの行進」などユニークなタイトルの公式講座を開催しています。自分に合った講座を探して足を運んでみてください。詳しくは「まちのお寺の学校」で検索を。



正会員は寺ネット・サンガのホームページで情報を発信することができます

事務局にお申し出いただきますと、正会員用アカウントを発行させていただきます。ログインして「会員用のマニュアル」に沿って、登録や記事の投稿をしてください。ご自身の活動発表やイベントの告知等、仏教関係のみならずイキイキと生活するための公共の利益になる情報・知識大歓迎です。

会員募集と新年度会費納入のお願い

- ・正会員「サンガを作り上げていく人」 年会費 10,000円
議決権あり・公開運営会議への参加あり。ホームページへ記事の投稿が可能
サンガ通信と総会議事録が郵送されます。
- ・賛助会員「サンガを楽しみ応援する人」 年会費 3,000円
議決権なし・公開運営会議への参加なし。ホームページへ記事の投稿不可
サンガ通信が郵送されます。



《お振込先》

三菱東京UFJ銀行 池上支店 普通0120753 (名義: テラネットサンガ)

新事務局紹介

中下大樹代表が8月末日を以って辞任、青木和広事務局長が仕事の関係で10月の総会を以って辞任されました。それに伴い、藤尾聡允・青木隆興・田村周作の3氏を加え、新たに事務局を構成しました。これまで同様に充実したサンガを目指します。どうぞよろしく願いいたします。

- 代表 吉田尚英 (日蓮宗・永寿院住職)
- 副代表 松本智量 (浄土真宗本願寺派・延立寺住職)
- 副代表 吉田健一 (浄土宗・浄信寺住職)
- 事務局長 佐藤清美 (会社員)
- 会 計 風間俊英 (会社員)
- 事務局員 藤尾聡允 (臨済宗・独園寺副住職)
- 青木隆興 (高野山真言宗・興徳寺住職)
- 田村周作 (ウェブ新聞社役員)

